



## テーブルウェア・オリジナルデザイン部門

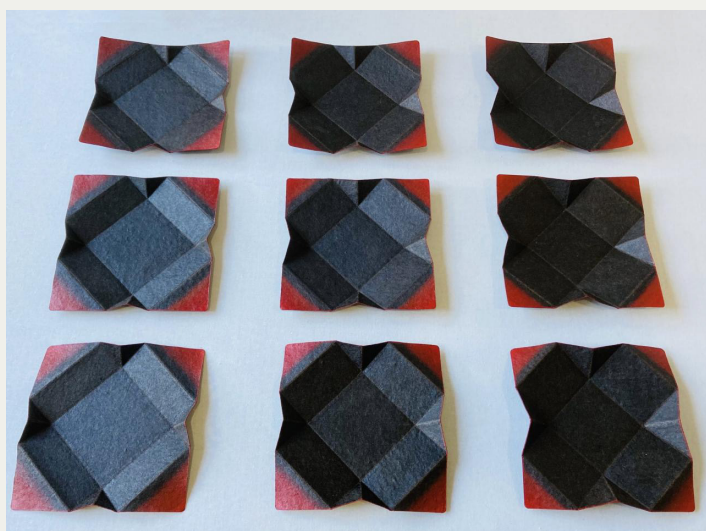
## ■ 大賞・経済産業大臣賞

練込暈線輪花組皿  
江沢 規予

## 宮田亮平審査員長コメント：

輪花型の皿をより美しく表現出来る様に作者は練り込み技法を大変うまく調和させているところがすばらしい。その練り込みの技法の中でより繊細な線を用いているが、その模様は紫・ピンク・白の顔料の色彩におけるバランスの良さが賞のような濃淡になっているところが実に心のやすらぎを感じさせる見事な作品である。

## ■ 最優秀賞・東京都知事賞

花が咲く  
畠中 陽一

## ■ 優秀賞・東京都庭園美術館賞

KURO-saki  
松浦 健司

## ■ 片山まび審査員賞

釉はじき皿～千紫万紅～  
野原 美恵

## ■ 川上麻衣子審査員賞

翼の風光  
齋藤 颯

## ■ 黒田和哉審査員賞

色・iro cup & saucer  
佐伯 香世

## ■ 三田村有純審査員賞

彩練上 四方鉢  
長江 哲男

片山まび審査員コメント： 成型から表面の施文はもちろん、裏面の施文まで隙がなく、高い技量を感じさせる作品です。明治工芸の「超絶技巧」を思わせつつも、緊張感ではなく、包みこまれるような温かみを魅力としています。花園に誘われるような趣をいつまでも眺めていたいと思わせます。

川上麻衣子審査員： 繊細な器が並ぶなか、一際存在感を放っていた白いオブジェに、不思議と惹かれました。冷たくとも思える芯の強そうなデザインでありながら、テーマである風と光を感じ、優しい印象が残りました。この作品を中心に食卓を飾った時には、どのような会話が弾むのだろうか、想像力がふくらみます。

黒田和哉審査員コメント： 練込の技法は手を加える程良いと言われていると思います。この通りです。花卉や雄しべも丁寧に表現しております。マット調の生地の発色もモノトーンで品が良い。腕の造形も型によるが輪花を僅かながら感じるソフトさが器物全体やさしさに合っている。受皿の形状も作為がなく好ましい。

三田村有純審査員コメント： 四隅が上空へと伸びた四方鉢は、たっぷりとして中に入れるのを包み込む。複雑な練り上げ技法で制作することで表と裏に同じ模様が展開する。薄い青と白の土を微妙に引くことによって描かれた四角の中の模様は花を連想させ、自然の大きなエネルギーが連なり発展していく様は無条件で美しい。

## 入賞作品

【優秀賞】	流紋の器 木村 正人	【優秀賞】	酒器 黒海 桑升 桃子
【佳作】	1/f ゆらぎ ウォルシュ 香織	【佳作】	「伐根 (バッコ)」盛木 須藤 賢一
【佳作】	山桜と黒檀のデザートペアグラス MOKU glass	【佳作】	葉の光 霧林 舞美
【佳作】	色織りのうつわ～光明～ 鄭 継深	—	—

## 入選作品

練り込み「五弁花皿」	秋山 ゆかり	アースのお茶会	荒木 織賀	足付き 黒泥皿	伊藤 能子
リンクル(4個組)	大塚 くるみ	desert	大塚 くるみ	六花	小田 紋子
ryosen	小野田 愛子	noire_blan	並木 智香子	練込綾杉紋様八方皿	木内 洋介
布目葱坊主紋組皿	北川 不三男	ペア幾何学模様鉢	木田 裕美	波のステージ	木村 正昭
foresty	齋藤 恵子	風	重田 啓子	はぁっとハート	高木 晃久
波乗り鯛焼き舟形器	高地 佐子	お重「Four Seasons」	出町 裕子	練上花紋鉢 ブーケ	寺澤 里美
魯山人に倣う “須田菁華”	藤八屋 塩土 純永	Éternité 永遠の食卓	陶房 火風水	絵付組鉢	常世田 茂
フェネル - Bowl	長島 保之	Flourish	新納 虫太郎	光の Rond	長谷川 祐子
光輝	福井 敏治	五色椿に思いを寄せて	本多 美也子	うきうき	大上 博
秋の器	木村 正人	SWING CUP 揺	塩安 愛子	ガラガラ	松山 昇司
二段シダ文皿	森本 勲弥	三角組皿 - 雅 -	板倉 由子	彩漆玻璃酒盃ひれシリーズ	晶阿弥 博子
あの空まで(パート・ド・ヴェール)	園田 美美子	わくわく	高橋 典子	Water Crown	唐梨子 あやか
ハレの日に	深谷 なをみ	阿波藍に寄せる想い	藤井 哲信	net bowl	三浦 静香
水面の華	湯浅 明子	大きくなったね♪	大木 しのぶ	—	—